

部落解放研究関係文献目録 (一九八〇年十月～十二月)

【現状】

- 高杉晋吾「三重の未組織部落ルポⅡ三重県松阪市―部落」混住・分散―進歩」論に乗り『京町追いつけ』考慮中の行政」
 (『部落解放』一五五号、10月)
 吉田・村上・藤井「解放への日々―戦後35年の夏に(上) (『京都新聞』連載)」(同右)
 平野一郎「(本の紹介) 解放新聞『被差別部落―西日本編』」(同右)
 林力「(本の紹介) 平野一郎『記者の目と人権』」(同右)
 寺沢堯運・林要三・多田敏行・上田学「丁女子大学学生にみる部落問題に関する意識の実態」
 (『奈良部落解放研究』二号、10月)
 高島典夫「部落問題に関する教職員の意識」
 (『ながさき部落解放研究』創刊号、10月)
 ≪特集≫「部落の健康問題を考える」
 (『部落』三九七号、10月)

- 宮木剛「戦前の『三角同盟』は、いま私たちに何を教えているか―『三重の未組織ルポ①』(『部落解放』十月号)に反論する」(『部落』三九九号、12月)
 上田一雄「現代における部落問題」
 (『現代の社会問題』△季刊労働法別冊七号、12月)
 北九州市教育委員会『同和問題についての市民意識調査報告書』(同上、12月)

【行政】

- 佐藤圭二「新しい町づくり(住宅・環境改善事業)の到達点をふまえて」(『部落問題研究』六五号、10月)
 北谷正「昔から被所―和歌山県本宮町のまぶづくり」(同右)
 唐木安義「京都市における町づくりの現状と問題点」(同右)
 三谷秀治「同特法の再延長をめぐる」
 (『部落』三九七号、10月)
 (『部落』三九七号、10月)
 日本社会党部落解放運動推進委員会「同和对策特別措置法案要綱(第一次案)」(同上、10月)
 大原享「『特別措置法』闘争の総括と新しい総合立法」
 (『部落解放』一五六号、11月)
 部落解放研究所行政部会事務局「部落差別の実態と部落解放基本法」(同右)
 横山和夫「神戸上池地区の現況(1)環境整備事業について」

山本敏貞「部落の医療・福祉を考える」
 山田順子「最近の同和地区の健康問題―保健婦がとらえた現状」

舞鶴市養護教員研究会「発達の観点から部落の子どものとらえ」

重村 梅「部落の変化と老人の健康問題―京都・田中診療所から」

三村正弘「未解放部落の被爆者―広島・福島生協病院から」
 ニホンミック『切抜き速報教育版(人権と福祉編)』一九八〇年五号(同上、10月)

高杉晋吾「三重の未組織部落ルポⅢ三重県南牟婁郡―未組織と過疎の荒廃に生きる」(『部落解放』一五六号、11月)

吉田・村上・藤井「解放への日々―戦後35年の夏に(中) (『京都新聞』連載)」(同右)

解放新聞社「被差別部落(東日本編)」(三一書房、11月)
 吉田・村上・藤井「解放への日々―戦後35年の夏に(下) (『京都新聞』連載)」(『部落解放』一五七号、12月)

(『月刊部落問題』四八号、11月)

高橋藤樹「尼崎市における同和行政の現状と課題」(同右)

寺尾孔明「同対審『答申』一五年と『特別措置法』強化改正」

(『部落解放』一五八号、12月)

原田伴彦「戦後同和行政史」(同右)

友永健三「部落差別の実態と部落解放基本法」(同右)

≪特集≫「今後の同和行政を考える」(『部落』三九九号、12月)

三谷秀治「同和行政と個人施策」

内田正志「神戸市における同和对策としての住宅改良の進捗状況と今後の課題」

池田孝雄「現地報告・生活の自立を求めて―田浜町平間地区の場合」

横山和夫「神戸上池地区の現況(2)―校区改正と小学校移転について」(『月刊部落問題』四九号、12月)

今田 保「(高知からの通信) 荒れる土佐の海―海の同対事業・同和観光船問題」(同右)

新市町・新市町教育委員会『新市町同和对策基本方針および指針』(同上、1980年9月)

上杉佐一郎はか「狭山闘争、今、なにが問われているか―8・9狭山中央討論集より」(『部落解放』一五五号、10月)

上杉佐一郎「(刑冠旗) 反動化に抗して人権擁護の先頭に立つ」(同右)

部落解放同盟熊本県連合会「いばら二度の結婚差別を受けて

(部落解放第24回全国青年集会での報告から)」(同右)

西岡 智「第一回全青参加の思い出と青年に期待するもの」

(同右)

鎌元昌弘「狭山裁判の『真実』について考える7—証拠における

裁判の不正」(『解放教育』一二七号、10月)

丹波正史「(動向)運動・新たな芽を育てた—第十回部落解放全

国青年交流集会」(『部落』三九七号、10月)

野間 宏「狭山裁判(第五八回)—再審棄却決定批判(7)」

(『世界』四一九号、10月)

小森龍邦「差別図書購入企業・中国電力への糾弾のあり方(1)

(2)」(『解放運動と同和教育』二四八号、二四九号、10月)

植松美行「狭山事件」

(『無実—冤罪事件に関する12章』所収、三一書房、10月)

田中二郎・佐藤功・野村二郎編「狭山事件—別件逮捕と差別捜

査」(『戦後政治裁判史論』第四巻所収、第一法規出版、10月)

部落解放同盟中央本部「部落解放三大闘争勝利・組織強化全国大

行動要綱」(同上、10月)

「同和对策事業特別措置法」強化改正要求国民運動城北実行委員

会「特別措置法」の強化改正は市民の人権と福祉を守る」

(同上、10月)

兵庫部落解放研究所「第一期解放学校受講生ノート」

(同上、10月)

国民融合をめざす部落問題全国会議「国民融合通信」№77

(同上、10月)

狭山中央闘争委員会「狭山を万人のものに」(狭山差別裁判第八

三号) (同上、10月)

山上益朗「狭山再審請求の現状と課題」

(『部落解放研究』二三号、11月)

木津 謙「『部落地名総鑑』と身元調査の実態」(同右)

研究所研究部行政部会事務局「『特別措置法』強化改正、『基

本法』制定にむけて」(同右)

磯村英一「部落問題の今日的課題」

(『部落解放』一五六号、11月)

八木晃介「重層化する排除の構造—安田信託銀行の差別事件」

(同右)

大川 順「乱脈・同和会(佐賀県連)の威圧をはねとばす—佐賀

県・大和町」(同右)

橋本 要「開設された狭山現地事務所」(同右)

鎌元昌弘「狭山裁判の『真実』について考える8—証拠判断の具

体性・客観性・合理性について」

(『解放教育』一二八号、11月)

岡田雅一「新大和交通事件—部落住民の生活権を不当に奪う」

(『部落』三九八号、11月)

別所秀夫「(動向)運動・就職選考時に基本的人権を」(同右)

野間 宏「狭山裁判(第五九回)—再審棄却決定批判(8)」

(『世界』四二〇号、11月)

「同和对策事業特別措置法」強化改正要求国民運動中央実行委員

会「部落差別の実態と『特別措置法』強化改正」(同上、11月)

解放新聞社「解放新聞(縮刷版)」第八巻(同上、11月)

「同和对策事業特別措置法」強化改正要求国民運動中央実行委員

会「同和对策事業特別措置法の強化改正について」

(同上、11月)

狭山中央闘争委員会「速やかに事実調べを」(狭山差別裁判第八

四号) (同上、11月)

中山武敏「常識に反した四ツ公案却決定—狭山・異議申立補充書

要旨」(『部落解放』一五七号、12月)

西岡 智「『狭山』再審闘争と司法共闘」

(『部落解放』一五八号、12月)

上杉佐一郎「八〇年代の部落解放の展望」(同右)

向井 正「『窓口一本化』の原則の堅持とその具体的対応につい

て」(同右)

谷木寛作「部落解放共闘の歴史と課題」(同右)

吉村 励「職場の差別実態と労働運動」(同右)

鎌元昌弘「狭山裁判の『真実』について考える9—総合評価につ

いて(その1)」(『解放教育』一二九号、12月)

長田 悟「(動向)運動・岡山市における八〇年全国闘争のとり

くみについて」(『部落』三九九号、12月)

野間 宏「狭山裁判(第六〇回)—再審棄却決定批判(9)」

(『世界』四二二号、12月)

小森龍邦「東洋工業の『部落地名総鑑』購入事件の現段階におけ

る争点(1)(2)」(『解放運動と同和教育』二五二号、二

五三三号、12月)

《特集》「闘いの輪を広げ、差別撤廃にたちあがれ—近畿二府四

県オルグ、点検闘争報告」(『荆冠旗』九号、12月)

大賀正行「部落解放運動の今日的課題」(同右)

中谷源司・渡辺俊雄・井上吉弘・松葉勝義「八〇年代

の部落解放運動(2)」(同右)

連合研事務局「差別『前置換算』(3)—賃金と差別」(同右)

自治研中央推進委員会事務局「第19年次自治研分科会別研究実践

課題—第11部落解放分科会」

(『月刊自治研』二五五号、12月)

部落解放同盟大阪府連合会「部落解放府政推進に関する要求書」

(同上、12月)

狭山中央闘争委員会「異議申立ての棄却を許すな」(狭山差別裁

判八五号) (同上、12月)

【理 論】

馬原鉄男「民主主義の課題と今日の部落問題」

(『部落問題研究』六五号、10月)

真田 是「現代独占資本主義と部落問題」(同右)

中西義雄「部落解放運動と国民的融合論」(同右)

《第一回部落解放研究者集会》「部落解放研究」二三号、11月)

大賀正行「部落解放理論の論争点」

編集部「部落解放研究関係文献目録」(同右)

福岡安則「部落差別と社会学—第53回日本社会学大会『差別問

題「部会の報告」(『部落解放』一五六号、11月)
植松健郎「部落問題は海外でどう理解されているか」
(『差別とたたかう文化』九号、11月)

青木孝寿「(動向)研究・第十一回東日本部落問題研究集会」
(『部落』三九八号、11月)

小森龍邦「部落解放の主体形成の理論」(東方出版、11月)
八木晃介「差別の意識構造」(『部落解放』一五八号、12月)
村越末男「部落解放理論入門」(同右)
大賀正行「部落解放理論争と課題」(同右)
山下恒男「差別の心的構造(第9回)―差別・偏見研究と心理学―日本の場合」(『福祉労働』九号、12月)

【解放教育】

橋本 要「私たちは戦争も差別もゆるしません―長野市協大豆島支部解放ことも会八・六同盟登校」
(『部落解放』一五五号、10月)

中村弘三「子ども会入門1―子ども会の自主性と指導」
(『解放教育』二二七号、10月)

元木 健「(図書紹介)中野陸夫編『教科教育における人間解放の理論と展開』」(同右)

仲田陽一「一九六〇年代同和教育運動の到達点―前半期を中心にして」(『部落問題研究』六五号、10月)

東上高志「講座・これからの同和教育5―部落問題の学習(その2)重視したいこと」(『部落』三九七号、10月)

四国地区同和教育研究協議会「第二七回四国地区同和教育研究会大
会報告」(高知県同和教育研究協議会、10月)

梅原達也「解放教育をめぐる覚え書き」
(『部落解放研究』二三号、11月)

《特集》「生活と歴史を共有しつ―第10回全国解放教育研究集
会」(『解放教育』二二八号、11月)

中村弘三「子ども会入門2―子ども会の指導計画」(同右)
佐古田好一「(動向)教育・教育反動の『はぐるま』攻撃」
(『部落』三九八号、11月)

東上高志「講座・これからの同和教育6―部落問題の学習(その3)全体像」(同右)
《特集》「部落問題学習」(『月刊はぐるま』四二号、11月)

東上高志「学校教育における部落問題学習」
浜田博生「小学校における部落問題学習」
谷口幸男「中学校歴史的分野における部落問題学習」
谷口勝己「中学校地理的分野における部落問題・人権学習に
ついて」

田中 滋「中学校公民的分野における部落問題学習」
山田 稔「高校の部落問題学習―滋賀県内のとりくみを中心
に」

奥西一夫「小学校社会科教科書の部落問題記述について」
東上高志「物語・戦後同和教育三〇年(連載第四一回)―滋同教
にみる同和教育研究」(同右)

鈴木祥蔵「戦後教育思想批判8―能力主義克服のために②」

《特集》「読み書き計算」(『月刊はぐるま』四一号、10月)

岸本裕史「読み書き計算の発達の意義」

東上高志「物語・戦後同和教育三〇年(連載第四〇回)―吉岡時
夫と『橋のない川』上映運動」
(『月刊はぐるま』四一号、10月)

山中多美男「第一回全国保育集分科会報告(第10分科会)同和
保育入門―差別を見ぬき、差別を許さない保育を」
(『はら』一三三号、10月)

鳥取県東郷保育所「同和保育の現場から1―伝承遊び」(同右)
坪井恵子ほか「私の教育実践(全国教研レポートから)―19人権
教育」(『教育評論』三九六号、10月)

鈴木祥蔵「戦後教育思想批判7―能力主義克服のために」

(『現代教育学』二八七号、10月)

谷口幸男・井上司「第六分科会・人権と民族(歴史教育者協議会
第32回神奈川大会報告集)」

(『歴史地理教育』三二二号、10月)

三吉鐵児「(狙撃兵)『解放の学力』について」

(『月刊労働組合』一六三号、10月)

大阪同和保育連絡協議会「第14回大阪「同和」保育研究会(討
議資料)」(同上、10月)

全国同和教育研究協議会「資料」部落問題を解決していくうえで
の教育上の諸問題と課題について」(同上、10月)

部落解放同盟大阪府連合会生江支部書記局「一九八〇年教育現場
のあいにく差別事件資料集」(同上、10月)

(『現代教育学』二八八号、11月)

大阪府立高等学校同和教育研究会「高校同和教育研究会―高校
同和教育の現状と課題」(同上、11月)

大阪府同和教育研究協議会「大阪の同和教育第九集」(『第32回
全国同和教育研究』(高知)大会報告集) (同上、11月)

福岡県同和教育研究協議会「第三回全国解放教育研究会(要
録)」(第三回全国解放教育研究会福岡県実行委員会、11月)

全国同和教育研究協議会「第32回大会高知県実行委員会」(第32回全
国同和教育研究会(資料)) (同上、11月)

第三回全国解放教育研究会地元実行委員会「解放保育を着実に
推進するために」(奈良県解放保育連絡会、11月)

永井等、籠原裕明ほか「(座談会)北九州市における身元調査の
実態と進路保障の取りくみ」(『部落解放』一五七号、12月)

谷内照義「同和教育の歴史と課題」
(『部落解放』一五八号、12月)

山中多美男「子どもと家庭と保育所」(同右)

林 力「最近の差別事件と解放教育の課題」(同右)

谷内照義「第三回全国同和教育大会をむかえて」
(『解放教育』二二九号、12月)

寺沢亮一・梅原達也ほか「(座談会)解放教育の原点は何か―全
同教に期待するもの」(同右)

関本紀美子「八〇年代の保育の創造にむけて―第一回全国保育集
会から」(同右)

福地幸造「続・残視周辺(最終回)」(同右)

- 《特集》「綴方の伝統をいまに」(『解放教育』一三〇号、12月)
 玉本裕・小西健二郎・玉田勝郎「兵庫における生活綴方の歴史と実践」
- 中川福督「教師から親へ、親から教師へ―往復書簡をクラスへ」
- 奥川英文「共生・共育の視点から」
- 松原市立第三中学校「ある中学生の班ノート」
- 更池千代も「はたらくつづけて今―聞き書きを演ずる子ども会」
- 坂下 強「林竹二の授業のひとつの観かたについて」
- 山田彰道「福地幸造雑事のこと」
- 福地幸造「分裂について―教訓は引きだせるか」
- 東上高志「講座・これからの同和教育7―部落問題の学習」(その4)「小学校」(『部落』三九九号、12月)
- 《特集》「人権の教育と生活綴方」
- (『月刊はるまき』四三三号、12月)
- 東上高志「物語・戦後同和教育三〇年」(連載第四二回)―原田寛次・由と関東の同和教育」(同右)
- 木下繁弥「個々の子ども発達と基礎学力の保障―学力保障の理念と課題」(『現代教育科学』二八九号、12月)
- 鈴木祥蔵「戦後教育思想批判9―能力主義克服のために③」(同右)
- 近畿大学同和教育推進委員会『解放(同和)教育の歩みと課題―開講五周年にあたって』(同上、12月)
- 柴山恵美子「現代世界と女性解放」
- (『部落解放』一五八号、12月)
- 堀 一郎「平和と軍縮の課題」(同右)
- 清水澄子「『国際婦人年』中間総括と女性差別」(同右)
- 錢本三千年「『国際障害者年』と日本の課題」(同右)
- 李 清「『国際人権規約発効一周年と今後の課題』(同右)
- 和島岩吉「エン罪と再審法の改正」(同右)
- 《特集》「インドにおける反差別・解放運動」
- (『部落解放史ふくおか』二二二号、12月)
- 小田明・原田貢ほか「△座談会△インド被差別カースト解放運動に学ぶもの」
- D・N・サンダンシフ「マラタワダ地方の反革命に関する考察」
- 薄井一夫「インドにおける不可触差別の実態―I・P・デサイ「ゲジャラト農村における不可触民制」を通して」
- P・タンガラージ「パットンとはどんな人たちか?」(1)―南インド・タミル州の被差別カースト(アンタッチャブル)Ⅱ
- パットンの歴史と現状」
- V・T・ラジシユカー・シニティー「アムベドカルと彼の改革」
- 《特集》「被抑圧者のたたかいと展望」
- (『解放教育』一二九号、12月)
- 山下栄一「国際障害者年を機に『障害者』解放教育の展望をきり開こう」
- 鶴嶋雪嶺「(本の紹介) 守川正道『差別からみた世界史』」
- (『部落解放』一五五号、10月)
- 柴山恵美子「婦人差別撤廃条約と日本の課題」
- (『解放教育』一二七号、10月)
- 高木典子「女性解放講座13―北欧の女性たち・大阪府海外婦人問題調査団に参加して」(『はらまき』一三三号、10月)
- 《特集》「男女平等の新展開」(『ジュニリスト』七二五号、10月)
- 日本弁護士連合会国会等対策会議再審法改正部会『日弁連再審通信』No.19(同上、10月)
- 人権擁護協力会通信編集部『人権通信』No.87(同上、10月)
- 高木典子「女性差別と人権―女性一〇番にあらわれた差別の実態」(『部落解放研究』二二三号、11月)
- 柴山恵美子「現代世界と婦人解放―婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」をめぐって」(同右)
- 谷木寛作「原水爆問題に見る差別」
- (『部落解放』一五六号、11月)
- 高木典子「女性差別一〇番をとりくんで」(同右)
- 田中 充「現代アメリカにおける被差別階層者の企業経営対策課題―『ホワイト・ハウス中小企業会議一九八〇年』からの教訓」(『部落解放』一五七号、12月)
- 宮崎繁樹「(本の紹介) 部落解放研究所編『日本における差別と人権』」(同右)
- 金井律子「康治の完全転校実現の日まで」
- 大久保定「被爆者の子として」
- 紀野鉄男「ヤマトのウチナンチュとして」
- 谷口智彦「上福岡三中はいたるところにあるのか」
- 関西水俣病患者の会事務局「水俣病は終わったのか」
- 内山一雄「第二回在日朝鮮人教育研究全国集會報告―子どもを真中に、親と教師をつなぐもの」(同右)
- 青木英五郎「陪審裁判のすすめ―冤罪防止と国民の司法参加のために(上)」(『朝日ジャーナル』一一四〇号、12月)
- 青木英五郎「陪審裁判のすすめ―冤罪防止と国民の司法参加のために(下)」(『朝日ジャーナル』一一四一号、12月)
- 瀬戸内晴美「誤判・裁くものはだれか―富士茂子さんと共に闘った二年」(同右)
- 《女たちはいま変わる―コペンハーゲン会議と女性差別撤廃条約》(『あつら』二三三号、12月)
- 《特集》「働く婦人と男女差別」
- (『季刊労働法』一一八号、12月)
- 《特集》「世界の障害児教育」(『福祉労働』九号、12月)
- 大阪・15教職員組合連絡会『みんな一緒に学校へ行くんやー』「普通」学級で学ぶ「障害」児教育の実践」(現代書館、12月)
- 日本弁護士連合会国会等対策会議再審法改正部会『日弁連再審通信』No.20(同上、12月)
- 人権擁護協力会人権通信編集部『人権通信』No.88(同上、12月)
- 宮崎隆太郎『障害児が見えてきた―大阪ではこうして受け入

れた」(三一書房、1980年8月)

【社会啓発】

香野貞人「堺市と福知山市の企業がドッキング―部落差別とたかかう両市の企業が交流会開催」(『部落解放』一五五号、10月)
村上博光「戦後社会同和教育の歴史と課題」

(『部落問題研究』六五号、10月)

長谷川善計「市民啓発はこれだよいか(中)―市民団体と行政の問題を中心に」(『月刊部落問題』四七号、10月)

《特集》「市民啓発の考え方・進め方」

(『部落』三九八号、11月)

長谷川善計・竹内隆夫「市民啓発の現状と問題点」

東上高志「市民啓発の課題とすすめ方」

長谷川善計「市民啓発はこれだよいか(下)―市民団体と行政の問題を中心に」(『月刊部落問題』四八号、11月)

東 寿隆「第20回社会教育研究全国集会報告」(第一部門第二分科

会)差別・人権問題と社会教育」

(『月刊社会教育』二八三号、11月)

《特集》「『人権の学習』何を基本にすえるか」

(『社会科教育』二〇九号、11月)

横田三郎「全ての差別・特権との闘いの自覚、そのための集

団の必要性の認識」

村越末男「専制と差別と戦争に反対する教育を」

宮崎繁樹「人権の学習をめぐる基本的課題を説明する」

元木 健「人権教材の取上げ方・そのポイントはどこか」は

か

「蓮如とその母」映画製作推進委員会「映画蓮如とその母」

(『月刊滋賀の部落』五八号、11月)

泉佐野市ほか『しあわせ7』(同上、11月)

木津 謙「『身元調査』と人権草の根運動」

(『部落解放』一五八号、12月)

中川喜代子「大阪府民の意識調査結果と社会啓発」(同右)

香野貞人「企業と部落問題」(同右)

村上博光「(動向)教育・社会同和教育の現状と問題―社会教育

研究全国集会から」(『部落』三九九号、12月)

北九州同和对策推進協議会「よあけ(同問題研修資料'80)」

(同上、12月)

【文化・思想】

川元祥「虚構の陽(連載小説第16回)」

(『部落解放』一五五号、10月)

《創る―みんなでつくる文化のページ》(同右)

《特集》「伝承と創造」(『解放教育』一二七号、10月)

土方 鉄「被差別部落の伝承文化」

更池編集委員会「男は唄わん、女の唄―被差別部落に埋もれ

てある守唄」

更池子とも会「『語り伝えたいただ一つのこと』を演ずるま

ど」

編集部「女と仕事6―ともに歩むために」(同右)

森田益子「(人間の記録)女ならこそ」(同右)

福地幸造「続・残魂周辺(7)―『党について』・中野重治論

控」(同右)

部落民謡研究会「滋賀県の未解放部落』民謡調査」中間報告」

(『部落問題研究』六五号、10月)

土方 鉄「〈批評と紹介〉田中克彦」ことばの差別―言語差別

追究の意図は十分だが言語エリートの発想の」

(『朝日ジャーナル』一一二九号、10月)

高島 寛「(書評)世界史との同時性―『地鳴り』村田拓小説集

1」(『文学学校』一八七号、10月)

上野清士「差別への混然のアプローチの魅力―八木晃介著『差別

の意識構造』」(『50冊の本』二七号、10月)

沖浦和光「日本文化史における賤民文化の位置②―日本文化の源

流と賤民制の形成・大陸文化との関係」

(『解放新聞』九九〇号、10月)

川元祥「虚構の陽(連載小説第17回)」

(『部落解放』一五六号、11月)

《創る―みんなでつくる文化のページ》(同右)

近藤計三「(本の紹介)『部落解放詩集』太陽もおれたちのもの

ではないのか」(同右)

斉藤律子「向田の盆踊唄と仕事唄―福岡県連向田支部をたずね

て」(『部落解放史ぶくおか』二〇・二二号、11月)

小林初枝「人間の記録―遠かった道のり」

(『解放教育』一二八号、11月)

福地幸造「続・残魂周辺(8)―『党について』」(同右)

野間宏・沖浦和光「〈対談〉〈漂泊と芸能〉の世界―門付け芸の

意味するもの」(『差別とたたかう文化』九号、11月)

梅沢利彦「ことば(西光万吉・再論)―『文学』の中の被差別部落

像・戦前篇」をまごめて」(同右)

阪本ニシ子「ことば(『ダイヤが光るとき』を読んで」(同右)

池田浩士「六〇年代の表現から、そしていま―塩見鮮一郎の作品

を中心に」(『新日本文学』三九九号、11月)

古賀忠昭・塩見鮮一郎「往復書簡―なぜ差別を描くか」

(『同時代批評』二号、11月)

塩見鮮一郎「表現としての『差別語』」

(『伝統と現代』六七号、11月)

沖浦和光「日本文化史における賤民文化の位置③―君主制と賤民

制との両極的対抗関係―律令国家群の形成」

(『解放新聞』九九四号、11月)

小沢昭一・土方鉄「〈対談〉芸人バンザイ(上)」

(『部落解放』一五七号、12月)

川元祥「虚構の陽(連載小説最終回)」(同右)

《創る―みんなでつくる文化のページ》(同右)

編集部「女と仕事7―パートで始める」

(『解放教育』一二九号、12月)

池田榮子「(人間の記録)いっぺんぶっちゃけともたろか」

(同右)

酒井真右「(図書紹介) 部落解放詩集『太陽もおれたちのもではないのか』」(同右)

池田浩士「へ全体」の外にあるもの―塩見肇一郎の作品を中心に(その2)」「(『新日本文学』四〇〇号、12月)

山下菊二「(グラビア) コラージュ・戦争と狭山差別裁判」(『季刊人間雑誌』五号、12月)

沖浦和光「日本文化史における賤民文化の位置④―中国・朝鮮・日本の賤民制その共通点をさぐる」(『解放新聞』、12月)

小林初枝「死んで花実が咲くものか―武州部落の頃と生活」(解放出版社、12月)

【宗教】

辻本正教「『天皇(制)』による洞部部落強制移転の実相」(『奈良部落解放研究』二二二号、10月)

原田伴彦「宗教と部落問題⑧―葬式さえも満足に営めなかった部落」(『南御堂』二一九号、10月)

浄土真宗本願寺派同朋運動変遷史編纂委員会「同朋運動史年表」(浄土真宗本願寺派出版部、10月)

仲尾俊博「穢と賤」(『部落解放史ふくおか』二〇・二二二号、11月)

林 久良「『旃陀羅』について」(同右)

原田伴彦「宗教と部落問題⑨―山林解放闘争と真宗僧・植木徹誠」(『南御堂』二二〇号、11月)

仲尾俊博「宗教と部落問題」(『部落解放』一五八号、12月)

近藤祐昭「水平社運動と東西本願寺教団」(『部落解放史ふくおか』二二三号、12月)

原田伴彦「宗教と部落問題⑩―氏神例祭での差別」(『南御堂』二二二号、12月)

【通史】

梅本光雄・長門隆明・長門次義「座談会」『水平社』時代を語る「(『ながさき部落解放研究』創刊号、10月)

磯本恒信「私とその部落民だ―長崎に生きて」(同右)

岩戸静枝「私の生いたち―浦上」だけが」(同右)

盛田嘉徳「あの人⑧」(『解放新聞』大阪版、四二七号、10月)

米田 富「緊張して、はじめての糾弾に―この人に聞く⑧」(同右)

『追悼・松崎武俊―人とその研究』

(『部落解放史ふくおか』二〇・二二二号、11月)

中村正夫「部落史から部落解放史へ―松崎史学の到達点」

広渡正利「松崎武俊収集文書について」

安藤龍生「『生産と労働』の視点の中で」

(資料)「松崎武俊年譜」

(資料)「松崎武俊著作目録」

(一陸)「(図書紹介) 信州農村開発史研究所編『水と村の証言―五郎兵衛新田物語』」(『解放教育』二二八号、11月)

近藤敏夫「高知具赤岡の歴史」

(『差別とたたかう文化』九号、11月)

亀井トム「部落史の基本観点と今後の展開」(『同時代批評』二二二号、11月)

盛田嘉徳「あの人⑨」(『解放新聞』大阪版、四三二号、11月)

小見山富恵「水曜会で高橋貞樹に会う」(『運動にかけた女たち』所収、ドメス出版、11月)

井上 清「天皇制と部落問題」(『部落解放』一五八号、12月)

柴田啓蔵「反論・反問・反撃」(『部落解放史ふくおか』二二三号、12月)

盛田嘉徳「あの人⑩」(『解放新聞』大阪版、四三三号、12月)

糸若柳子「向野水平社の思い出」(同右)

小林 茂「部落史研究の上で学ぶもの」(『日本庶民生活史料集 成(第二五巻) 編集のしおり』、三一書房、12月)

清原美寿子「へ一〇〇〇号記念インタビュー」西光さん平和運動に徹す―清原美寿子さんをたずねて」(『解放新聞』一〇〇〇号、12月)

亀井トム「部落史論争の批判―本当の転換とみせかけの転換」(『現代の眼』二五二号、12月)

原田伴彦・秋定嘉和「部落」(『日本庶民生活史料集 第二五巻』(三一書房、12月)

【近代】

増田史郎亮「長崎における被差別部落強制移住の諸情況(その1)」(『ながさき部落解放研究』創刊号、10月)

姫野順一・若木太一「史料篇」島原藩被差別部落関係」(同右)

塚田 孝「近世後期における江戸の非人と町方」(『部落問題研究』六五号、10月)

井ヶ田良治「口丹波地方の部落について―寤牛馬処理権と入会をめぐって」(同右)

井手幸喜「(動向) 研究・近世における賤民制研究と地域社会―歴史科学協議会第十四回大会」(『部落』三九七号、10月)

落合重信「部落の起源(4)」(『月刊部落問題』四七号、10月)

土井作治「広島藩の非人支配について」(『芸備地方史研究』二二八号、10月)

網野善彦「日本中世の民衆像―平民と職人」(『岩波新書』一三六) (岩波書店、10月)

日井寿光「兵庫の部落史―近世部落の成立と展開」(神戸新聞出版センター、10月)

武田義文「坂ノ者」ヤシキの地形性について―長曾我部地検帳を素材として」(『部落解放研究』二三三号、11月)

小林 茂「(書評) 安達五男著『被差別部落の史的研究』」(同右)

東 義和「部落史研究と地域史―布引敏雄著『長州藩部落解放史研究』に寄せて」(同右)

脇田 修「近世部落史の到達点―松崎武俊の偉業によせて」(『部落解放史ふくおか』二〇・二二二号、11月)

船越 昌「部落解放史研究における松崎説の意義」(同右)
 永尾正剛「小倉藩被差別部落の構造―農業・家族・通婚」(同右)
 能美安男「福岡藩安政の改革と被差別部落覚書」(同右)
 高田寛明「皮工・孫左衛門」補足考―播州室津と高木村における皮革業」(同右)

松尾準一「天保十三年豊前小倉藩の差別法令―『田野浦村庄屋文書』の紹介」(同右)

古賀幸雄・鶴久二郎「穢多弾左衛門跡式訴え帳付―弾左衛門由緒書」(同右)

落合重信「部落の起源(第5回)」

(『月刊部落問題』四八号、11月)

宮田伊津美「岩国領の被差別民について」

(『山口県地方史研究』四四号、11月)

芳賀 登「(本の紹介)井上準之助著『近世農村産業史論』」

(『部落解放』一五七号、12月)

盛田嘉徳「被差別部落の始まり」(『部落解放』一五八号、12月)

落合重信「部落の起源(第6回)」

(『月刊部落問題』四九号、12月)

東 義和「(批評と紹介)石田善人監修、白井寿光編著『兵庫の部落史―近世部落の成立と展開』―地域差、支配政策の多様さを総体的に扱えた叙述史」

(『朝日ジャーナル』一一三九号、12月)

藤本清二郎「近世賤民制の展開と地域社会―泉州南王子村を中心として」(『歴史評論』三六八号、12月)

三浦圭一「中世から近世初頭にかけての和泉国における賤民生活の実態」(同右)

芝 英一「田辺領と部落問題序章」

(『くちくまの』四六号、紀南文化財研究会、12月)

松崎武俊「福岡領における近世被差別部落の農業化について」

(『福岡藩社会経済史の研究』所収、12月)

【近現代】

磯本恒信「長崎県の被差別部落史と現況」

(『ながさき部落解放研究』創刊号、10月)

編集部「(資料)地方改善事業の推移(大正一四年より昭和一六年まで)」(同右)

井口和起「近代天皇制論について」

(『部落問題研究』六五号、10月)

鈴木 良「天皇制と部落問題」(同右)

藤野 豊「融和団体『同愛会』史論―水平社・内務省との関係の考察」(『歴史学研究』四八五号、10月)

白石正明「上田静一と田中親友夜学校(2)―夜学の危機と帝國公道会への接近」(『京都部落史研究所報』三四号、10月)

柴村一重「筑前竹槍―探研究の視点―松崎武俊論文の視点と問題点」(『部落解放史ふくおか』二〇・二一号、11月)

白石正明「公明会とその同人たち―智寛・三十里・争水」(同右)

大串夏身「明治中期の福岡県下の皮革産業の統計について―福岡県勧業年報」・『福岡県統計書』を中心として」(同右)

イアン・ニアリー「『改善』から『解放』へ―改善運動の水平社発展に対する貢献」(同右)

大塚正文「熊本県近代部落解放史覚書」(同右)

浅尾篤哉「全国水平社の創立と西光方言」

(『国史学研究』六号、竜谷大学国史学合同研究室、11月)

白石正明「上田静一と田中親友夜学校(3)―自ら先頭に北海道へ移住」(『京都部落史研究所報』三五号、11月)

編集部「大正初期の融和行政―『明治の光』研究(7)」

(『月刊滋賀の部落』五七号、11月)

谷口勝己「滋賀県における部落解放運動―同和教育運動史のた

めに因」(同右)

高市光男「愛媛近代部落問題資料(下)」

(近代史文庫大阪研究会、11月)

鈴木 良「日本近代史研究における部落問題の位置」

(『歴史評論』三六八号、12月)

中島智枝子「協同夜学校の設立について」

(『京都部落史研究所報』三六号、12月)

松井久吉・大源実・寺本知・渡部徹「八千号記念座談会<戦後の運動ふりかえる>」(『解放新聞』一〇〇〇号、12月)

編集部「大正初期の融和行政―『明治の光』研究(8)」

(『月刊滋賀の部落』五八号、12月)

谷口勝己「滋賀県における部落解放運動―同和教育運動史のため

に因」(同右)

高市光男「愛媛近代部落問題資料(下)」

(近代史文庫大阪研究会、11月)

鈴木 良「日本近代史研究における部落問題の位置」

(『歴史評論』三六八号、12月)

中島智枝子「協同夜学校の設立について」

(『京都部落史研究所報』三六号、12月)

松井久吉・大源実・寺本知・渡部徹「八千号記念座談会<戦後の運動ふりかえる>」(『解放新聞』一〇〇〇号、12月)

編集部「大正初期の融和行政―『明治の光』研究(8)」

(『月刊滋賀の部落』五八号、12月)

谷口勝己「滋賀県における部落解放運動―同和教育運動史のため

に因」(同右)

大串夏身「近代被差別部落史研究」(明石書店、1980年9月)

(700部限定)

南王子村文書刊行会編

大阪府南王子村文書 全五巻完結

A5判・上質紙・上製・箱入・各巻1,000頁前後 セット価格 49,000円
 送料 1,200円

第1巻 戸口、行政。第2巻 行政、村会、財政。第3巻 財政、租税。第4巻 租税、地方税不納、金融、村方惑乱、警察、裁判、土地、土木・水利、衛生、共同風呂。第5巻 産業、教育、宗教、文化、相撲、法令、私文書。

大阪府泉北郡南王子村の戸長文書(明治5年～明治22年)。旧和泉国泉郡南王子村の人々は近世を通じて、差別と屈辱に耐えて生きねばならなかった。その記録は、先に『奥田家文書』全15巻にまとめて編集・刊行を完了したが、本書はそれに続いて、近代初期の社会変革期の部分をまとめたものである。被差別部落の近代初頭に関するまとまった史料が乏しく、系統的に村内外の出来事を把握できる資料の刊行は、いまだ例がない。新しい社会体制の中で、苦悶していく姿が初めて明確にされることになった。部落史研究の空白部分をみたく史料である。特に、町村制実施までの戸長制の実態、村民の生活の実相は、今後の研究に多くの好資料を提供する。研究家必読の史料集。

発行 社団法人 部落解放研究所

発売 解放出版社